

西暦 2022 年 12 月 1 日

産業医科大学では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、職場での配慮の変更の実態を明らかにする研究です。

この研究に関するお問い合わせ、また、ご自身の情報が利用されることを了解されない場合は、以下の問い合わせ先にご連絡ください。利用の拒否を申し出られても何ら不利益を被ることはありません。データを削除させていただきます。

1. 研究課題名 身体疾患を持つ労働者に対する配慮の変更に着目した事例収集調査
2. 研究期間 2022 年 12 月～2024 年 3 月
3. 研究機関 産業医科大学
4. 実施責任者 医学部 両立支援科学 准教授 永田昌子

5. 研究の目的と意義

2016 年に「事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン」（以下、ガイドライン）の公表、2020 年に療養・就労両立支援指導料が加算できる診療報酬が改定され、我が国における治療と仕事の両立支援の取組みは、職場及び医療機関にて始まりました。ガイドラインにフォローアップの必要性が言及されているものの、継続的な支援の実態や支援再開の具体的な契機については明らかではありません。

がん患者は、治療を続けながら就労を継続するなかで、治療に伴う倦怠感や疲弊、痛みなどの身体的問題、集中力や記憶力の低下などの認知的問題を抱えることがあると報告されています。それらの変化に応じ業務を遂行する能力の変化があった場合は、職場での配慮の変更など継続的な支援が必須です。しかし、職場での配慮の継続や変更の実態、変更しているのであればどのように行われているのかは明らかではありません。そこで、本研究の目的は、身体疾患を持つ労働者に対する配慮の変更に着目した事例を収集し、職場での配慮の継続や変更と支援の方法の実態について明らかにすることです。

6. 研究の方法

日本産業衛生学会産業医部会員を中心に事例を収集します。WEB システムを用いて WEB 上での入力により情報を収集します。入力いただく内容は、事例の性別、年代、疾病名、休職期間、労働者の作業内容、職場復帰直後の就業上の配慮、就業上の配慮の変更の有無、変更の時期、変更の契機、職場での支援方法及び研究参加者である事例提供者の名前と連絡先などです。事例収集に回答することについて、研究対象者自身から事業場に説明と承認をもらうようお願いしております。

7. 個人情報の取り扱い

本研究ではすでに匿名化したデータを利用するため、研究者が、労働者の個人情報を取得することはありません。

8. 問い合わせ先

産業医科大学 医学部 両立支援科学 准教授 永田昌子
(093-603-1611 内線 4683)

9. その他

本研究に参加することで直接的な利益および経済的負担はありません。本研究結果より、身体疾患を持つ労働者への適切な配慮が普及されることが期待されます。本研究は一切の利益相反はなく、産業医科大学利益相反委員会の承認を得ており、公平性を保ちます。